

# 長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2025年第35週 2025年8月25日（月）～2025年8月31日（日）2025年9月4日作成

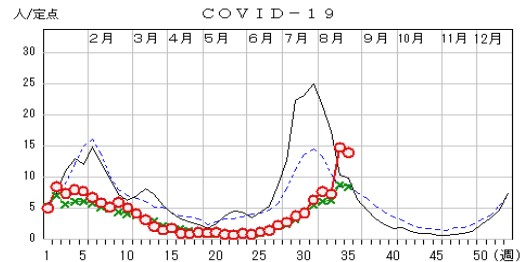
☆定点※報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

## （1）新型コロナウイルス感染症

第35週の報告数は710人で、前週より44人少なく、定点当たりの報告数は13.92であった。

年齢別では、10歳未満（140人）、10～19歳（104人）、70～79歳（102人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、対馬保健所（28.67）、県北保健所（23.33）であった。

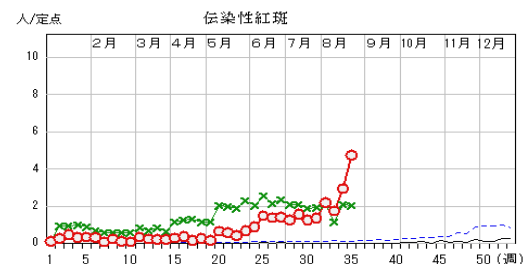


## （2）伝染性紅斑

第35週の報告数は147人で、前週より56人多く、定点当たりの報告数は4.74であった。

年齢別では、4歳（27人）、5歳（27人）、6歳（19人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、佐世保市保健所（9.50）、県央保健所（8.60）、県南保健所（8.00）であった。

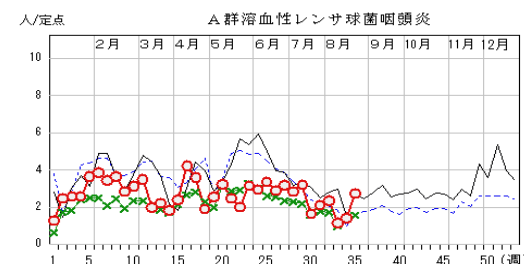


## （3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第35週の報告数は85人で、前週より41人多く、定点当たりの報告数は2.74であった。

年齢別では、5歳（18人）、10～14歳（12人）、4歳（9人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（10.33）であった。



○—○ 当年（長崎県） — 前年（長崎県）  
×—× 当年（全国） - - - 前年（全国）

※急性呼吸器感染症定点数：51、小児科定点数：31、眼科定点数：8、基幹定点数：12  
（2025年第15週より定点数が変更されました）

## ☆上位3疾患の概要

### 【新型コロナウイルス感染症】

第35週の報告数は710人で、定点当たり報告数は13.92でした。地区別にみると、対馬地区（28.67）、県北地区（23.33）は他の地区より多くなっています。前週より減少しましたが、今後も動向に注意しましょう。

本疾患の主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状で、主に飛沫感染や接触感染により感染します。場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

【伝染性紅斑】

第35週の報告数147人で定点当たり報告数は4.74となり、4週続けて警報レベルの報告数となりました。地区別では、10保健所中6保健所で警報レベルの報告数となっています。

本疾患は、ヒトパルボウイルスB19による感染症で、小児を中心にみられる流行性の発しん性の病気です。約10～20日の潜伏期間の後、微熱やかぜの症状などがみられ、その後、両頬に蝶の羽のような境界鮮明な赤い発しん（紅斑）、体や手・足に網目状やレース状の発しんが広がりますが、ほとんどは合併症を起こすことなく自然に回復します。一方で、これまで感染したことのない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児の異常や流産のリスクとなる可能性がありますので、注意が必要です。感染経路は、飛沫感染や接触感染ですので、手洗いやマスクの適切な着用など感染予防に努めましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第35週の報告数は85人で、前週より41人多く、定点当たりの報告数は2.74でした。地区別では、県南地区（10.33）が警報レベルの報告数となっています。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。症状がある場合は、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いを励行し、感染防止に努めましょう。

☆トピックス：マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。

長崎県では、2025年第35週までに、9件のSFTS、16件の日本紅斑熱が報告されています。

マダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

長崎県におけるダニ媒介感染症の発生件数

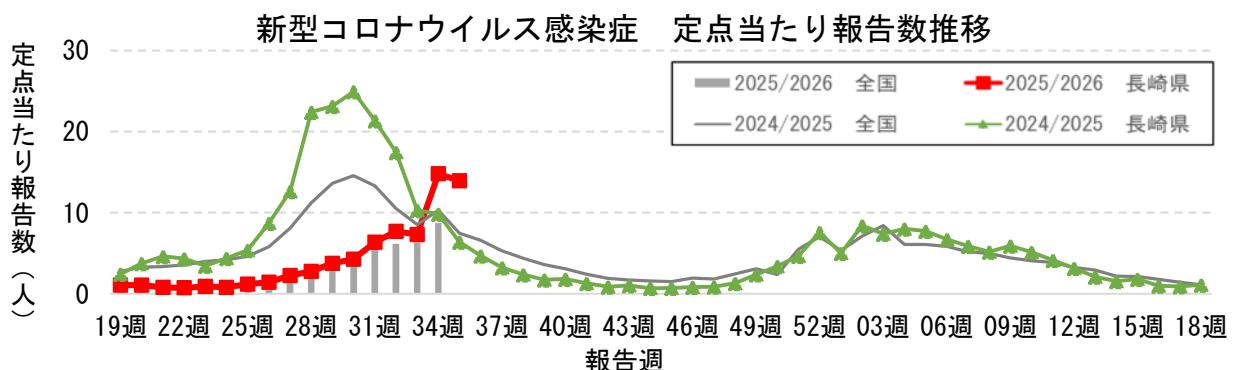
| 年     | 2020   | 2021    | 2022   | 2023    | 2024    | 2025 |
|-------|--------|---------|--------|---------|---------|------|
| SFTS  | 8 (5)  | 6 (4)   | 6 (9)  | 13 (9)  | 13 (11) | 9    |
| 日本紅斑熱 | 18 (5) | 28 (13) | 22 (4) | 14 (11) | 23 (15) | 16   |
| つつが虫病 | 11 (0) | 14 (3)  | 7 (0)  | 15 (5)  | 11 (1)  | 0    |

※（ ）は第35週までの発生件数

☆トピックス：新型コロナウイルス感染症に注意しましょう

新型コロナウイルス感染症の長崎県における第35週の定点当たり報告数は「13.92」でした。地区別では、対馬地区（28.67）、県北地区（23.33）が多くなっています。年代別にみると、10歳未満（19.7%）、10代（14.6%）、70代（14.4%）が多くなっています。

今後も場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。



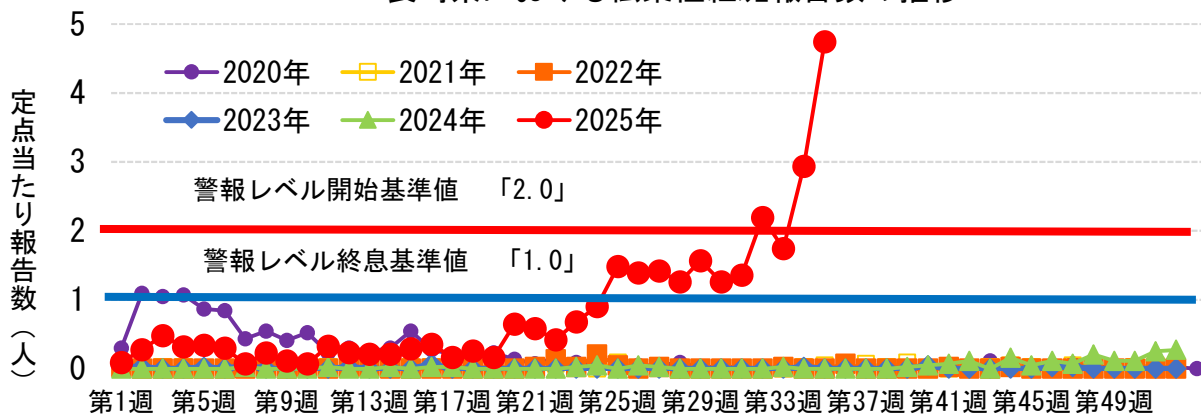
★トピックス：伝染性紅斑が流行しています

伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルスB19による感染症で、小児を中心にみられる流行性の発しん性の病気です。両頬がリンゴのように赤くなることから、「リンゴ病」と呼ばれることもあります。約10～20日の潜伏期間の後、微熱やかぜの症状などがみられ、その後、両頬に蝶の羽のような境界鮮明な赤い発しん（紅斑）が現れます。続いて、体や手・足に網目状やレース状の発しんが広がりますが、これらの発しんは1週間程度で消失し、ほとんどは合併症を起こすことなく自然に回復します。一方で、これまで伝染性紅斑に感染したことのない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児水腫などの重篤な状態や、流産のリスクとなる可能性がありますので、注意が必要です。

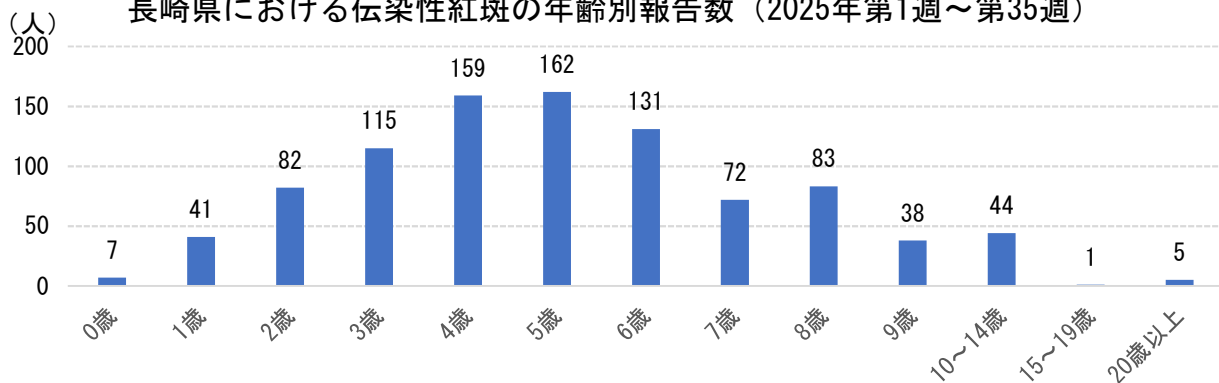
2025年第35週の報告数は147人で定点当たり報告数は4.74となり、現在の調査方法になった1999年以降最多を更新しました。第32週に警報レベル開始基準値「2.0」を超え、4週続けて警報レベルの報告数となっています。地区別では、10保健所中6保健所において、警報レベルの報告数となっています。

感染経路は、飛沫感染や接触感染で、かぜ症状のある時期にウイルスの排出が最も多くなるといわれています。治療薬やワクチンがないため、感染予防が重要です。特に妊娠中の方やそのご家族ではかぜ症状がある方との接触をできる限り避け、手洗いやマスクの適切な着用など感染予防に努めましょう。

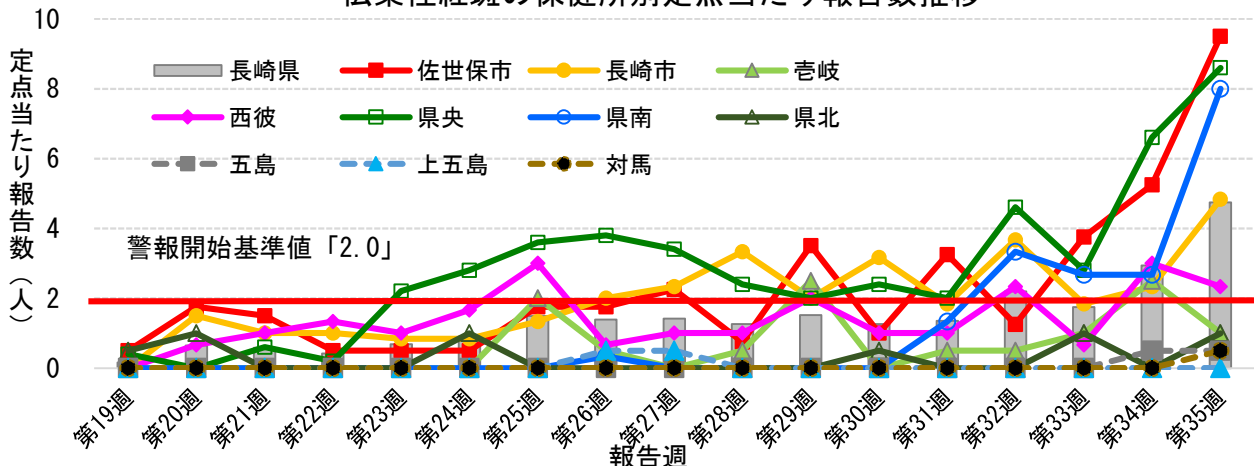
長崎県における伝染性紅斑報告数の推移



長崎県における伝染性紅斑の年齢別報告数（2025年第1週～第35週）



伝染性紅斑の保健所別定点当たり報告数推移



### ◆定点把握の対象となる5類感染症

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第35週、8/25～8/31) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

4